

④史跡-1 荏名神社神橋とその周辺

荏名神社は江名子川と塩谷川の合流地点に鎮座する。大きな岩が存在する神域は、古来稲置の森と言われて小さな祠があった。文化 12 年(1815)飛騨が生んだ国学者田中大秀は延喜(905～)の昔に定められた飛騨八社の一社であったことを考証し、神域を整備し社殿を改築して境内の一隅に千種園と称する邸宅を立て、祭祀を怠らず著作と後進の指導に努めた。

荏名神社神橋^{えなじんじゃしんきょう}は大秀の設計による橋で、石造の橋台と梁が残っている。橋台の上部から長形の石材を上方斜めに突き出し、この上に 2 層の梁を結合させ最上層に桁を渡したもので、桁は失われているが撥橋^{はねばし}として貴重なものである。天保 15 年 12 月設計の図面が現存する。

〈市指定〉昭和 59 年 3 月 2 日

〈所在地〉江名子町 1290 番地

〈時代〉江戸時代

〈員数〉1 基、設計図 2 枚

橋(1 基)梁の長さ 4.3m、幅 2.05m

設計図(2 枚)

①荏名神社大前石御橋^{おおまえいし}勸進記

②荏名神社大前石御橋之図 天保十五年十二月吉日 田中大秀敬白